科目名		担当教員	
福祉ボランティア活動		小野　芳秀	
科目コード	単位数	履修方法	配当年次
DA2142	1	R (実習)	1 年以上
生成 AI 利用レベル	レポート　：　C		

※この科目はレポートのみで単位認定します（科目修了試験はありません）。

科目の概要

■科目の内容

ボランティア活動は実践することに意義があります。本科目は、学生の普段からの自発的な活動に対し、これを推進し、また学生自身がレポートの形で第三者に伝えることで、学生自身が活動を客観的に振り返り、点検を行った結果を次に活かすことを目的としています。したがって評価対象は、活動者の実体験に基づく「活動の振り返り」や「内省」「客観的な考察」が主となります。

■到達目標

課題１（自身の活動を題材にする場合）

1）自身が行ったボランティア活動に対し、課題に提示された①～⑧・⑨の項目に沿ったレポートにより他者に報告する形式で客観的な振り返りを行うことができる。

2）活動中に直面した問題や課題に対し、自分なりの改善案を提案することができる。

3）計画的な実践活動として、活動の質を向上させるための方策をレポートで提示できる。

課題２（他者の活動を題材にする場合）

1）他者が行ったボランティア活動あるいは団体の活動について、取材を通して客観的にレポートに記述し分析することができる。

2）活動の取材を通じて、活動者本人が感じている“やり甲斐”や“意義”を理解することができる。

3）ボランティア活動の実際を理解することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 100%

■教科書・参考図書

【教科書】

教科書は使用しません。

レポート学習

■在宅学習８のポイント

テキスト　指定なし

※ボランティア活動未経験者を想定し活動開始から終了までの流れに沿ってポイントを説明する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ボランティアの意義と性格	ボランティア活動の意義と性格を理解する。 キーワード：ボランティア活動の性格、自身の目的の明確化	ボランティア活動の性格である①自発性、②無償（給）性、③公益性（公共福祉）性、④創造性、⑤継続性について理解した上で、自身が希望する活動（頻度・期間、対象、場所、形態等）を明確にする。
2	ボランティア活動の情報収集	ボランティアセンター等の活用。 キーワード：ボランティア・センター、ボランティア・コーディネーター、ボランティア・アドバイザー、社会福祉協議会	自身にとって無理のない活動を探す（マッチング）。地元のボランティアセンター（社会福祉協議会等に設置）窓口にて自身が希望する活動を探し、必要に応じてボランティア・コーディネーター相談する。
3	ボランティア活動調整	ボランティア依頼者（団体・NPO 等）との事前調整。 キーワード：「ボランティア活動保険」	「どのような内容（どこまでやるのか）」、「いつまでやるのか」についてボランティアと依頼者の間で予め合意形成を図る。ボランティアセンターの窓口で「ボランティア活動保険」に加入する。
4	ボランティア活動の開始	ボランティア活動を開始する。 キーワード：活動記録、守秘義務、相談者の確保	活動中のトラブルや疑問について随時相談できる人材（ボランティアセンターのスタッフや活動先団体の担当者等）・体制を自ら確保する。活動内容や課題・対応策等について任意のノートに記録する。
5	ボランティア活動の終了	ボランティア活動の終了。 キーワード：振り返り、引継ぎ、活動評価	活動プログラムの点検や引継ぎを行う。
6	ボランティア活動の振り返り	ボランティア活動の振り返り。 キーワード：課題・問題の明確化、振り返り	自身の活動を振り返ることで課題・問題点を明確化し、客観的に振り返りを行う。
7	ソーシャルアクションの検討	個別ニーズから福祉的ニーズへの捉え直し。 キーワード：ソーシャルアクション	身近な活動から得られた知見から依頼者のニーズを福祉的ニーズとして社会全体の構造の中で捉え直し、可能であればソーシャルアクションに発展させる。
8	ボランティア活動記録の作成	ボランティア活動の総括として記録やレポートにまとめる。 キーワード：記録作成	記録やレポートにまとめることで、経験を言語化する。課題や改善案を自身の次回以降の活動に活かす。活動初心者の参考として情報を共有する。他の活動者との課題や解決策の共有化を図る。

■レポート課題

1 単位め (課題 1・2 のいずれか 1 つを選択)	**課題 1**：あなたが行ったボランティア活動について、以下の項目に従い具体的に記述しなさい。 ① 「活動対象」②「活動期間」③「活動動機・目的」④「活動内容」 ⑤「研修・準備期間」⑥「問題点・反省点」⑦「改善案（⑥について）」 ⑧「自己評価（③を含めて）」⑨「質問」
	課題 2：あなたの身近なボランティア個人・ボランティア団体について、上記の③～⑦・⑨について、具体的に調査し記述しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※課題 1・2 のいずれかを選択。

あなたが 1 年間を振り返り、実際に行ったボランティア活動について記述することが可能であれば課題 1 を、ボランティア活動が行えなかった場合は課題 2 を選択してください。

■アドバイス

【課題 1 アドバイス】

① 「活動対象」には、対人ボランティアの場合は、「高齢者」「障害者」「児童」等を、それ以外は活動の対象を表記してください（例：河川清掃等の環境ボランティアの場合は「近所の河川」と表記）。

② 「活動期間」には、活動を行った日時・延べ活動時間を記述してください（例：20●●年５月２日（3 時間）・5 月 14 日（2 時間）・7 月 12 日（3 時間）延べ８時間）。

③ 「活動動機・目的」には、「なぜそのボランティア活動をしようと思ったのか」、また「どのような目的で活動を行ったのか」について記述してください。

④ 「活動内容」には、ボランティア活動の内容について具体的に記述してください。

⑤ 「研修・準備期間」には、その活動を行うにあたり準備したことや、事前に参加した研修等について記述してください。特にない場合は省略して構いません。

⑥ 「問題点・反省点」には、活動の際に生じた問題、反省点等を記述してください。

⑦ 「改善案（⑥について）」には、⑥で直面した問題について、「どのように対処したか」、また、後から活動を振り返って「こうすれば良かった」について記述してください。

⑧ 「自己評価（③を含めて）」には、③の活動動機・目的について、「実際活動してそれが達成できたかどうか」について記述してください。

⑨ 「質問」には、活動を通して感じた疑問等、また活動に直接関係がなくともボランティアに関する質問があれば自由に記述してください。

注 意

・レポートに具体的個人名は記載せず、プライバシーに十分配慮してください。

・本科目は、受講者の普段からの自発的なボランティア活動について評価を行うものであり、レポート評価が直接的な目的ではありません。これから活動する方で、特に対人のボランティア活動を行う場合は、この点について十分自覚し、形だけの活動になって相手に不快感を与えることのないよう、真摯な態度で臨んでください。

・活動中の事故については、全国の県・市・区の社会福祉協議会が窓口となっている「ボランティア保険」があり、活動によって生じた事故による通院費や対人・対物賠償が補償されます。それぞれの窓口に問い合わせて、事前に加入しておくことをお勧めします（掛け金年間数百円程度）。

・①「活動期間」は、定期的に長期間にわたるもの、イベント等の単発活動を問いません。ただし、1、2 時間程度の活動が 1 回のみの場合は、「レポートの題材および水準に見合わない体験的活動」として評価対象外とします。最低 2 回以上の活動を希望します。

・「活動記録ノート」を用意し、その日に活動した内容について項目毎に記録しておくと、レポートとしてまとめる際に役立ちます。
・レポートとして記述する活動は複数でも構いません。複数の場合はそれぞれ分けてレポートを作成してください。
・家族や身内を直接的な対象とする活動は本科目において評価対象外とします。

【課題２アドバイス】

課題１を参考に、③～⑦・⑨について取材形式で調査した内容からレポートを完成させてください。取材調査を行う場合は、相手に調査の目的およびプライバシーを配慮する旨を説明しましょう。